英国における道徳教育・PSHE（Personal, Social and Health Education）やCitizenship の授業を参考とした、多様性の受容（Diversity & Inclusion）を目指した授業づくり

前ロンドン日本人学校　教諭
千葉県木更津市立祇園小学校　教諭　池　田　沙　織

キーワード：在外教育施設、ロンドン、LGBT、多様性の受容（Diversity & Inclusion）、PHSE

１．はじめに

文部科学省中央教育審議会（2016年10月21日）にて、道徳の時間を「特別の教科」として正規の教科に格上げする答申が出された。道徳の時間を教科化することで、指導内容や教材を更に充実させ、子ども達の規範意識や自己肯定感、人間形成能力などを伸ばしていくことが求められている。

ロンドン日本人学校においても、「自ら学び、心豊かにたくましく国際社会を生きぬく児童生徒の育成」を学校教育目標とし、学校経営の重点の１つとして「『豊かな心』と『望ましいマナーや習慣』の育成」が挙げられている。児童の道徳的実践力を高めるため、実態に応じた道徳的価値の設定、教材の精選、発問の吟味などに励み、道徳の授業を充実させ、より良い指導方法について研究を積んでいきたいと考えた。

英国・ロンドンは他民族・多文化都市である。現地校では、異なる文化的背景や価値観をもつ児童生徒が共に学んでいる。また、英国では、LGBT（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender）当事者が差別を受け、それを苦に自殺するという事件が起こり、LGBTに対する理解を進めようという動きが広まってきた。教育においても、LGBTの理解促進が非常に重要な課題となっている。そのような状況の中、子ども達の道徳性を育成していくために、どのような指導が行われているのかを調査し、自分自身の実践へと生かしていきたいと考え、本研究を行った。

２．英国社会に見える多様性の受容（Diversity & Inclusion）

多様な民族が暮らすロンドンでは、異なる言語を用い、異なる文化をもち、異なる宗教を信じる人々が共に生活をしている。多様な人々が共に暮らすための工夫の１つとして、ロンドンの地下鉄の券売機は、多言語表記ができるようになっている。表示可能な言語数は17言語と非常に多い。また、民族や言語、宗教だけでなく、ジェンダーの多様性に対しても、ロンドンでは先進的な取り組みが見られる。2017年８月には多様なジェンダーコミュニティに配慮し、ロンドン交通局はジェンダーを特定するLadies and Gentlemenという挨拶を廃止するという動きも見られた。また、最も有名であると考えられる取り組みは、性的マイノリティであるLGBTの文化や尊厳を讃えるPride in London Paradeの実施である。

Pride in London Parade 2018では、実際に沿道からパレードの様子を見た。思い思いの格好でフロートの流す大音量の音楽にのってパレードする人々、そして沿道からレインボーフラッグを振ったり、音楽に合わせて歌ったり拍手をしたりしてパレードを盛り上げる人々。明るく熱気に溢れ、そしてポップなその様子に、LGBTに対する前向きな理解や、人がその人らしく生きることへの思いの強さを感じた。また、Pride in London Paradeには多くの企業が協賛し、広告等にレインボーカラーを使用したり、ロンドンの名所であるロンドンアイがレインボーカラーにライトアップされたりと、街全体でこの祭典を盛り上げていた。

2018年７月には政府がLGBTの人々の生活向上に向けたLGBTアクションプランを発表した。これは、LGBTの人々へのアンケート結果を基に、「生活満足度と安全の確保」「教育」「健康」「職場環境」等の観点から政府の対策をまとめたものとなっている。「教育」の観点では、2019年３月までにイングランドの学校1200校以上に300万ポンド（約４億4200万円）を拠出しアンチ・ホモフォビック（同性愛に対する嫌悪感の表出への反対）や性的思考・性自認に基づくいじめ等に対処するプログラムを実施していく方針が示されている。このことからも、

現在の英国の教育において、LGBTの理解促進が非常に重要な課題となっていることがわかる。

３．イギリスのPSHEの授業や授業教材

多様性の受容や、LGBT 理解に向けた授業作りのため、ロンドン日本人学校の近隣校であるウエストアクトン校のPSHE（Phisical Social Health Education：人格的社会的健康教育）の授業内容やPSHEの教育書Inspirational Ideas：PSHE and CTIZENSHIP７－９／９－11を参考とした。

PSHEの授業は１週間に１度、決まった時間に設定されている。国内の多くの地域や学校ではケンブリッジ県PSHEサービス（PSHE Service Cambridgeshire County Council）が作成したカリキュラムが用いられている。このカリキュラムでは、初等学校のPSHEの学習領域として「自分と自分を取り巻く人間関係」（Myself&My Relationships）「市民性」（Citizenship）「健康でより安全な生活様式」（Healthy&Safer Lifestyles）の３つが設定されている。

また、このカリキュラムで特徴的なことは、PSHEの授業で狙いとしている項目が全て疑問文で表記されていることである。例えば、第３学年の「自分と自分を取り巻く人間関係」領域の狙いとしている項目には、「どのようにしたら自分の意見を効果的に周りの人たちと共有できるか？」「友人関係がうまくいかなくなったときに何ができるのか？」などがある。発問を多用した授業づくりを目標としたPSHEの授業では子どもに自分のことについてじっくりと考えさせることを重要視している。

（1）Similarities and Differences

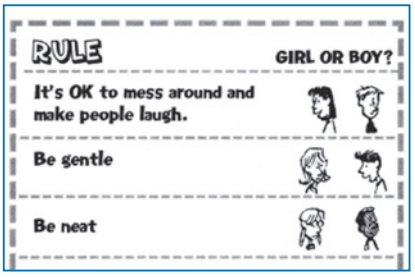
これは、「人間関係」（Relationships）の項目の中の活動である。２人１組になり、お互いに似ているところと違うところを考え、話し合い、書き出していく。人には似ているところ（人としての基本的な生理的な現象や権利など）もあれば、違うところもたくさんある。全てが同じという人は、決していない。体格、好み、態度や意見、価値観、生活様式や能力など、様々な違いがあるということを理解し、違いがあることは当たり前のことであるという考え、また互いの違いを認め合おうという姿勢を育てることを目的としている。

（2）The Perfect Parson?

これは、「考え方や意見、価値の探究」（Exploring Attitudes, Opinions and Values）の項目の中の活動である。「完璧な人はどんな服を着ている？」「完璧な人は何色の瞳？」「完璧な人は海が好き？田舎を歩くのが好き？絵を描くのが好き？」「完璧な人は自分のことを何て表現する？」などの10この質問を子どもたちに投げかけ、小集団で考え話し合う。質問について考え、話し合うことを通して、「完璧」な形などないこと、みんなそれぞれ違うからこそおもしろい、みんな失敗したり、失敗から学んだりして成長しているということに気付かせることを目的としている。

（3）What are we meant to do?

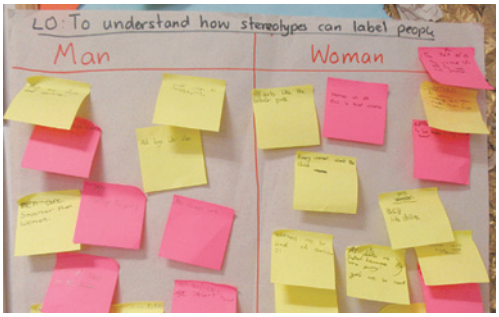
これは、（2）と同様に「考え方や意見、価値の探究」（Exploring Attitudes, Opinions and Values）の中の活動である。Be Sensible, Don’t cry, Be strongなど、様々な決まり（Rule）について、女子と男子どちらがより当てはまるか考えさせる課題である。私たちは、性差によって知らず知らずのうちに決まりを作ってしまっていることに気付かせると共に、その違いについてどう思うか考えさせる。性差ではなく、一人ひとりの違いに目を向け、認め合う気持ちを育てることを目的としている。



学習のワークシートの一部
Inspirational Ideas：PSHE and CTIZENSHIP
９－11より

(4) To understand how stereotypes can label people

これは、近隣校のウエストアクトン校Year4の学級で行われていた活動である。男と女それぞれのイメージを考えて付箋に書き、話し合っていた。子ども達からは、All boys like blue. Every woman work the child. などの考えが出された。(3) の活動のように、自分達は知らず知らずのうちに「男はこう、女はこう」というラベル付けをしていることに気付かせると共に、男女差ではなく個人の違いを認め、尊重する気持ちを育てることを目的としている。



子ども達の考えが書かれた付箋
（ウエストアクトン校 学習掲示より）

4．本校での取り組み

(1) 授業実践　総合的な学習の時間「やさしさ発見」(小学部　第３学年)

①町たんけん

多様な人が共に生活するために、町にはどのような工夫があるかフィールドワークを行った。また、わかったことを手作りのマップにまとめ、発表会を行った。子ども達は様々な人々が安全に、安心して暮らすために、町にはいろいろな工夫があることに気付くことができた。

≪言語の異なる人々のための工夫≫
- 地下鉄の券売機（17言語）
- 看板や値札等での多様な言語表記など

≪身体や目が不自由な人々のための工夫≫
- Disable 優先の駐車スペース
- 点字ブロックや音の出る信号機など

②「聞いて、さわる」体験　（点字体験、ブラインドウォーク体験、ブラインドボックス体験　ブラインドランチ体験、ブラインドスポーツ（ボール回し）体験）

①の町たんけんの活動で見つけた町の工夫の中で、目が不自由な人々のための工夫に着目し、目が不自由な人々がどのように生活しているのかを知ることを目的に活動を行った。ブラインドウォークやブラインドボックス体験については、現地の学校との交流会の際に、現地校児童も一緒に活動を行った。

子ども達の活動の様子
（ブラインドウォーク、ブラインドランチ、ブラインドボックス）

子ども達は、点字やブラインドウォークの難しさや大変さを感じると共に、聴覚や触覚を用いて周囲の様子や物を判断したり、行動したりすることの面白さにも気づくことができた。

(2) 授業実践　道徳「ちがいについて考えよう」(小学部　第３学年)

ロンドン日本人学校の子ども達にも、互いの違いを認め合い、共に助け合い生活する気持ちをもってほしいと考え、自分自身が道徳の授業実践を行った。

導入で担任や英語教員（出身：英国、アイルランド、カナダ、アメリカ、インド）の目の写真を提示し、子どもたちに一人ひとりの目の色や形の「ちがい」に着目させた。その後の展開では、絵本「せかいのひとびと」(出典　ピーター・スピアー（文・絵)、松川真弓（訳)、評論社）を用いた。この絵本では、体格や目や髪の色、髪型、好みや得意なこと、感じ方などが一人ひとり違うこと、そして住んでいる国や地域、民族や文化によって着る物や食べる物、住む家や言葉が違うことなど、人と人との違いについて、絵と文で具体的に描かれている。また、12色肌色鉛筆People of the World（STAEDTLER社）の実物を用意し、提示した。肌色と言っても、この色

鉛筆の中には黄色や褐色など濃淡豊かな様々な色があり、世界中には様々な肌の色の人がいるということがわかる。

読み聞かせを聞いたり、提示された色鉛筆を見たりしながら、資料の中で描かれている様々な違いについて、まずは身近な違いに目を向け、自分と友だちや先生、日本と英国などを比べさせ、さらに、その他の場所や国、文化の特色について知り、世界には多くの違いがあるということを考えさせていった。

使用した教材や授業の様子
（スライド、色鉛筆、授業風景）

(3) 授業参観　道徳「ありのままの自分」（小学部　第６学年　花田理絵教諭）

教員研修の全体研修授業でLGBTについての授業を参観した。

「ありのままの自分でいられるには、どんなことが大切か考えよう」という学習目標のもと、LGBT当事者の方が書いた話をもとに、授業を行われた。LGBTという言葉の意味を知らせると共に、当事者の方の葛藤する気持ちについて子ども達にも考えさせていた。子ども達は、自分だったらどうするかと考える中で、一人ひとりが自分らしくいるには、「差別をしない」「友達の話を受け入れる」「LGBTの人々のことを理解し、伝える」ことの大切さに気付くことができていた。

LGBTについての授業の様子

(4) LGBT理解に向けた授業のカリキュラム化

本格的にLGBTの授業について指導を進めていくために、校内で研修会を行い、カリキュラム化を進めていった。イギリスや日本の先行事例を参考にしながら、小学部低・中・高、そして中学部という大きく４つの発達段階に分け、それぞれの段階で目指す、育てたい子ども達の姿勢や目標を設け、その目標に対して実際の教育実践や教材開発を進めている。平成30年度内に、各発達段階、各学年で話し合い、具体的な授業案を考えると共に、その考えた授業案を来年度の道徳の年間指導計画に位置づけていく。そして、平成31年度（令和元年度）以降は、各学級で年に１回はLGBT理解に向けた授業を実施していく予定である。

５．おわりに

多民族・多文化都市である英国・ロンドンで過ごした３年間は、人種、宗教、文化、習慣、ジェンダーなど、人の多様性を強く感じる日々だった。その中で、改めて、互いの違いを認め合い、互いに受け入れながら共に生活することの大切さを実感した。

英国のPHSEの授業について学び、その教材等を取り入れながら授業作りをすると共に、新たな教育的課題であるLGBTについても知り、理解を深めることができたことも、非常に有意義だった。

帰国後は、本研究を通して学んだことを、自分自身の教育実践に生かしていきたいと思う。